

令和3年10月14日

令和3年度第6回世界農業遺産等専門家会議
徳島県にし阿波地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 第一期保全計画で目標を具体的に定め、着実かつ意欲的に取組が行われており、高く評価できる。第二期保全計画では、これまで進めてきた取組を着実に定着させ、さらに発展させることが重要である。
- 2 本地域は急傾斜地をそのままに農業利用する極めて独特な景観を有するが、これらは住民にとって日常的な風景である。本地域の価値を住民自身が理解し、農業遺産の維持保全への取組を行う意識を高めるためには、関係者間でより多くの情報交換の機会を設け、本地域の価値を常日頃から確認し合うことが重要である。加えて、地域の誰もが、本地域の農業遺産の価値を観光客等へわかりやすく説明できるようになることや、傾斜地農業の合理的な土地利用システムとそこでの暮らしを理解できる場所(集落等)を増やすことなど、地域の価値をさらに多くの人に共有する取組を期待したい。
- 3 担い手確保については、幅広い関係者が協力して受入体制を構築しており、現時点でも十分に評価できる。今後、本システムを維持保全していくためには、移住・定住による就農者の確保だけでなく、「多様な担い手の確保」という視点が重要である。様々な交流人口や関係人口を増やすこともそのひとつであり、人々が気軽に本システムに関われる場をつくることが大切となってくる。また、本地域で行われている農業と様々な仕事を組み合わせたマルチワークの実践を、これからの農業の在り方のひとつとして本地域から国内外に発信していただきたい。
- 4 本地域の世界農業遺産の維持保全に係る取組をより一層推進する際には、行政による取組だけでなく、地域やNPO、企業等による民間サイドの主体性のある取組が出てくることを期待したい。

(以上)